

崇城大

地域にちなんだ柄で オリジナルのマスクを製作

7月29日、崇城大の学生らが、熊本県宇土市にちなんだ絵柄「ウトガラ」の手ぬぐいを使ったマスクづくりのワークショップを企画し、宇土市の工務店で開催された。

宇土市と連携してまちづくりに取り組んできた学生らは、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、現状に合った企画を模索。そこで、感染症対策に役立つマスクづくりの企画提案に至った。

ウトガラとは、うと地蔵祭りや市街地を通る上水道など、宇土市の資源やイベントをイメージして柄にしたもの。同市在住のデザイナーによりデザインされ、市内の有志メンバーにより手ぬぐいやハガキなどが製作されている。

ワークショップは、協賛企業と協力し、感染症対策を十分に施して開催。当日は工務店に来店した約10名が参加した。ウトガラについて説明を行ったあと、参加者は全18種類の柄からマスクに使用する手ぬぐいを選定。アイロンで折り目をつけて固定し、ひもを通してマスクを完成させた。

今回のワークショップを開催した学生は「実際にウトガラの手ぬぐいを手に取ってもらい、宇土の魅力を感じてもらえたことは大変よかった」と語った。



ワークショップでは、手ぬぐいを選ぶ場面もとても盛り上がった